

## 夏季に見られる感冒の特徴と秋季に注意したい疾患など

2015年9月30日

イーストウェストメディカルセンター  
孫力、黄衛紅、角居典枝

2015年5月1日～2015年9月20日の期間、当クリニックで感冒による受診率を統計した所、全体の38%を占めるという結果になりました。

今年夏季の感冒の症状は例年と大きな差は無く、発熱と咳が主な症状となっています。しかし、アレルギー体質或いは喘息の既往歴がある患者は症状が繰り返し出現し、加えて咳症状の期間が比較的長くなっています。一部には症状が悪化、細菌感染の疑いで抗生物質の長期服用によりようやく治癒するというケースも見受けられます。症状が長引く患者には、場合によって呼吸器疾患に関する病原検査の肺炎マイコプラズマ抗体、肺炎クラミジア抗体、アデノウイルス抗体、レジオネラ菌抗体等の検査を実施しますが、原因がはっきり分からないケースも少なくないのが現状です。

広州も秋季に入りましたが、日中の温度差が最大で10℃に及ぶ日もあり、突然の気温下降時に体を冷やし呼吸系疾患になるケースが増加します。抵抗力が低い或いはアレルギーや喘息の既往歴がある方は、この季節とりわけ天気の変化に注意するようクリニックでも注意喚起しています。

また、この季節は小児の“秋季下痢”が多く見られる時期でもあります。秋は気温差が大きいことによりロタウイルスが流行し、乳幼児に下痢を引き起こさせ易くなる為、衛生や感染予防にも注意を促しています。

最後に、デング熱についてですが、2014年は広東省で発症数45,189人、死亡数6名（广州市卫生和计划生育委员会※①）となり、特に秋季（9月 - 11月）に爆発的な流行が見られました。しかし2015年は、早い時期からデング熱の発症報告があるものの、昨年との比較では広州での爆発的流行はまだ見られていません。2015年9月20日の廣州日報（※②）の報道によれば、広州市で確認された現地症例は4件にとどまっています。また同メディアは、現在広東省において潮州での現地発症数が570例に上っており、広東全省の85.8%を占めていると報じています。加えて、広州市に隣接する東莞市では9月24日までに8例のデング熱患者（5例が現地症例、3例がマレーシアとフィリピンからの輸入症例）が確認されており、現地では例年より早く、また複数の街にまたがって発症していると報じられました。10月以降は広州市でもデング熱が流行する可能性もあるため、蚊に刺されない工夫が必要となっています。

※① 广州市卫生和计划生育委员会

<http://www.gdwst.gov.cn/a/yiqingxx/2015021513046.html>

の添付感染症発症者死亡者リスト中の『登革熱』というところに広東省の2014年度数値が出ています。

※② 廣州日報

[http://gzdaily.dayoo.com/html/2015-09/20/content\\_3012633.htm?\\_sfinapub-ins](http://gzdaily.dayoo.com/html/2015-09/20/content_3012633.htm?_sfinapub-ins)